

## 「加治木中学校の太鼓踊り伝承活動の取組」

### 1 学校名

始良市立加治木中学校

### 2 学年・人数

1年生33人

### 3 日時・場所

#### (1) 練習の日時・場所

平成30年7月～11月 総合的な学習の時間（本校中庭）

平成30年10月24日（水）リハーサル（本校体育館）

平成30年10月31日（水）リハーサル（本校体育館）

#### (2) 発表の日時・場所

平成30年11月2日（金）加治木中学校文化祭（本校体育館）

平成30年11月11日（日）加治木秋祭り（加音ホール）

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

#### (1) 名称

太鼓踊り（たいこおどり）

#### (2) 由来

江戸で駿河の念仏踊りが練り歩いたところ，大流行していた疫病が下火になったという話を島津義弘が聞き，文禄・慶長の凱旋祝いに家臣に習得させ，薩摩に持ち帰ったと言われている。太鼓踊りは，昔は雨乞いの時も踊ったといい，疫病や災厄をもたらす悪霊や御霊を鎮めて，勇壮・豪華な踊りや華やかな行列で送り出そうとするもので，農村生活に密着した野趣にあふれた群舞である。

#### (3) 構成等

太鼓踊りの先頭に立つのは「ホタ振り」といい，太鼓と鉦に合うようにホタや扇を振り，踊りの指揮を取るように踊る。その後ろには「鉦打ち」が4人続き，歌に合わせて鉦を打つ。「太鼓打ち」は，道太鼓（行進）のときは2列縦隊で，庭踊りの時は円形になり左まわりにまわって，足をはねて賑やかに踊る。2列に並ぶ踊り手は，朝鮮軍と島津軍に分かれ，戦の様子を演じる。また，白・赤の化粧をした二人のドラ打ちは，血なま臭い戦場でユーモラスな動きを加え，笑いを誘う狐役である。1961（昭和36）年8月16日に，鹿児島県無形民俗文化財に指定されている。

### 5 保存会や地域との連携の具体

総合的な学習の時間の1年生の学習テーマが郷土教育学習となっており，加治木地区にある保存会の方が毎年交代で文化祭での発表と地域行事への参加に向けて指導をいただいている。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

7月に、始良市教育委員会社会教育課文化財係の職員の方と太鼓踊り保存会の方を講師として学校にお招きし、太鼓踊りの歴史や現在の取り組みについてDVDや資料を使って講演をしていただいた。11月初旬の文化祭に向けて9月下旬から19回の練習を行った。練習のはじめに、「ホタ振り」「鉦打ち」「太鼓打ち」の役割について歴史的な背景を含めた説明やそれぞれの動きにどんな意味があるのかを説明していただいたうえで練習に取り組んだ。練習の際は、必ず太鼓踊り保存会の方々が指導に来てくださった。練習の合間を使って「この太鼓踊りの伝統を地域で引き継いでいくためにどのような取り組みをしてきたか」ということをお話しいただくことで、伝統を引き継ぐことの大変さや偉大さを生徒が学べるように工夫した。

## 7 取り組みの様子

太鼓の身に付け方を練習している様子である。2人1組でペアを作り、お互いに確認をしながら太鼓の身に付け方を覚えていった。



文化祭当日の発表風景です。化粧や着付けに時間がかかるため、この日は他の地区の太鼓踊り保存会や生徒の保護者など、30人以上の方々がお手伝いに来てくださった。発表では、厳粛な雰囲気の中で、鉦や太鼓の音を体育館中に響き渡らせ、練習してきた成果を十分に発揮することができた。



11月11日（日）に加音ホールで行われた「かじき秋まつり」で太鼓踊りを披露した。文化祭とは違い、地域から多くの人が集まるイベントの中での発表だったので緊張もありましたが、一生懸命取り組むことができ、とても良い思い出となった。



## 8 参加生徒の感想

私は何年も加治木に住んでいるのですが、太鼓踊りについてはほとんど何も知りませんでした。ですので、今回文化祭やかじき秋まつりを通して、実際に身をもって学べるというのは、とても貴重で新鮮な時間となりました。練習では、暑かったり太鼓が重くて肩が痛かったりすることもありましたが、保存会の方々がお手本を示しながらいつも丁寧に教えてくださったおかげで頑張ることができました。保存会の方々には心から感謝しています。ありがとうございました。

私はこの太鼓踊りの活動を通して、伝統文化を受け継ぐことはとても大事なことだと気づくことができました。伝統文化には、昔の人々のいろいろな思いや願いが込められているので、これからも大事にしていきたいと思います。